令和8年度市民健康づくり推進協議会　会議録

日　時：令和8年10月15日（木）午後1時30分から午後3時 00 分まで
目　的：令和7年度の健康増進計画の進捗状況の報告と令和8年度の平塚市保健事業の取り組み報告
場　所：平塚市保健センター　2階健康学習室
出席者：佐藤委員、長谷川委員、水島委員、倉田委員、大草委員、石原委員、吉田委員、大野委員、
　　岡田委員、立石委員、山本委員
欠席者：横溝委員、雑賀委員
事務局：磯部部長、田村課長、小林課長代理、樹本課長代理、佐々木主管、三浦課長代理、毛呂主管、
　　金子主任、長谷川主任、八木沢主任、石井主事

1. 開会
○　会議に先立ち委員改選のため、市長に代わり健康・こども部長から各委員に委嘱状を交付した。
○　資料の確認、各委員による自己紹介後、会長に倉田委員、副会長に吉田委員を選任した。

2. 議題
（1）令和7年度の健康増進計画の進捗報告と、令和8年度の健康増進計画の事業について
事務局：　資料の修正をした。
　　令和7年度の健康増進計画の進捗報告と、令和8年度の計画について説明した。

会長：
　資料1、2について、事務局から説明がありましたが、委員の皆様から何かご意見等ございますでしょうか。ご意見がないようでしたら、私の方から質問させていただいて、ご意見いただけたらと思います。
　資料の 2 ページです。アンケートの 3 歳児の食塩摂取についてですが、アンケートの聞き方を変えたことにより、3 歳児の保護者が塩分に気をつけている割合は 69.2%にとどまっていることが今回わかりました。現代の家庭において減塩を取り組む上での本当の難しさとか無理なく改善するための方法についてご意見をいただきたいと思います。

委員：
　・3 歳児塩分意識のアンケートから実際どのくらい意識が違うのかが分からない。園としては、保護者に向けた給食体験や、地域の方に向けた開放保育の中で給食の味を体験してもらう機会があります。
　・離乳食のときから薄味のものを食べさせる習慣や教育をすることも大事だと思います。
　・子どもの頃にできた味覚の影響は大きく、大人になってからの嗜好にも影響するため、幼少期から保護者の方の注意と、園での体験を通して家庭での味付けにも関心をもってもらいたいです。

会長：
　がん検診についてのお話がありましたが、ウェブ予約や、商業施設での実施で利便性が高めても、まだがん検診受診率が、伸び悩んでいます。
　受けなきゃいけないと思っているけど足が向かない。なかなか時間が取れない。予約が取りづらいなど理由は色々あると思うが、そのようなハードルを、少しでも下げるために、パンフレットとか、広報活動の点で、皆様からご意見をお聞かせいただきたいと思います。

委員：
　・医療機関との兼ね合いもあると思うが、商業施設でのがん検診回数がもっと増えると良いです。
　・がん検診そのものの中身が見えない、所要時間が分からないというのが、受診から遠のいている一因ではないでしょうか。
　・会社の健康診断などで指定された医療機関に行くが、その医療機関でがん検診を行うことに不安を感じることもあるため、医療機関の情報が見える化されると良いです。

会長：

患者さんからはがん検診の Web 予約のハードルが高いと聞いています。Web 予約の充実化も必要だが、Web 予約できない方への工夫も必要ではないでしょうか

事務局：
令和7年度に Web 予約を実施してみて、操作方法が分かりにくいという声もあったため、令和8年度のパンフレットには、スマホからの予約の流れを図で案内した。また、これまで通りはがきや、窓口での申込みも継続しています。
医療機関で受けていただく場合は医療機関に電話で予約を取ることはできます。

委員：
市から通知が届いても健康だから、会社で受けてるから市の検診は受けないという理由でこれまでがん検診を受けてこなかった。市民の方も検診の中身がもう少し分かれば、周知、認知していただければ受けようと思うかと思います。

事務局：
検査内容が分からない、よく分からないからがん検診を受けるのが怖いという意見をいただくこともある。パンフレットや、ホームページを活用して流れや、所要時間を伝えたり、どんな検査をするのかなど説明するべきと思いました。参考にさせていただきます。

委員：
昨年職場を退職しフリーになったので、初めて市の検診の案内をじっくり読みました。胃がん検診は2 年に 1 回でいいとか、乳がんは何歳の偶数月で受けてくださいとか複雑で、自分が受けられる項目を見極めるのが大変だと思いました。。
これまで胃カメラを受けてきましたが、市の胃がん検診はほとんどがバリウムで、胃カメラができる医療機関を探すとなるとどこがあるか？かかりつけ医で胃カメラができない場合知らない医療機関に行かなければならず二の足を踏んでしまっているのが本音。多くの方が面倒になってがん検診を受けるのをやめてしまう気がしました。

事務局：
胃がん検診は集団検診はバリウム、医療機関では胃カメラ（内視鏡）となってます。また被爆の面で、毎年受けてもいいけども、「2 年に 1 回の受診を推奨する」と書くこともあるため説明が分かりにくくなってしまっているかも知れません。
パンフレットはこの先も全戸配布をしてますので、がん検診の仕組みが市民の方に浸透していったらいいなと思っています。

委員：
市で検診についての公開講座はありますか。検診の内容や方法を知ることができ、実際にその場で予約を取ることができるような市民講座があると良いです。

事務局
・市民病院と共催で市民公開講座を開催しているが、必ずしも5つのがんの内容とも限りません。
・パンフレットには、がん検診に関するコメントを医師会の先生が伝えるよう工夫しています。今後は動画で説明を加えることも考えられるかもしれません。

会長：
3 歳で虫歯のない者の割合が、令和 7 年度だと 93.3%。12 歳になると 82.7%に下がってきます。幼少期の歯の健康の状態はすごく大切だと思うんですけれども、低下してる原因とか、今後の対応策について歯科医師会の大草先生にご意見いただければと思います。

委員：
3 歳と12歳の虫歯のない者の割合を比べ、12 歳が低いのは、食生活や生活リズムが変わり、歯ブラ

シも自分で管理するようになるため、12歳の虫歯のない割合が下がっていると思われます。
　12 歳の歯肉が良くなっている話もありましたが、SNS が流行し、美にこだわる子が最近増えている。
　ただ、見た目を気にする気にしない関係なく、生活リズムの乱れなどで虫歯になることもあるため、学校や家庭を通して、本人に分かってもらうことが大事と考えます。
　歯科医師会としても、世の中の変化に合わせて色々な情報を出していかなくてはいけないと考えています。

会長：
　60歳以上で自分の歯が 24 本以上の者が増えてきています。また50歳以上で咀嚼の満足度の割合が増えてきているなどありますが、オーラルフレイルや、歯の健康にについて意見はありますか。

委員：
　休憩時や、食事の後に歯磨きしましょうみたいな事は、子ども向けの指導はあるけれども、大人向けの情報は殆ど聞かない。産業の分野でいうと女性は、職場で口の事を気にしてる感じがするが、男性は歯みがきをしている感じがない。働く世代の男性に向けて歯みがきをしようと情報発信があってもいいと思います。

会長：
　子どもや、高齢者に向けて口腔ケア指導がされるけど、その間の世代に向けた啓発活動のようなものはあんまり目にしないですね。

事務局：
　保育園や小学校には歯科衛生士が巡回指導していますが、大人に向けた発信は少ないかもしれないです。東京大学と連携して取り組んでいるオーラルフレイル予防講座や、歯科医師会が開催するイベントなどに参加をして啓発活動は行っているがまだ十分浸透していないかも知れません。

委員：
　東京大学との事業はまだ地域が限定されており、広げている途中。歯医者に通っている人だけではなく、何もしていない人を含め、みんなを拾い上げていく方法を考えていく必要があります。
　例えば市を挙げて健康に関するイベントを開催して、日頃歯医者へ行かないような人にも伝えられるような場を市で是非作って欲しい。

事務局：
　管理栄養士がスーパーに働きかけて、減塩の取り組みをした実績があります。口腔ケアやオーラルフレイル予防についても同じような取り組みができるかもしれないので、ご意見として賜ります。

（2）令和 8 年度平塚市保健事業の概要について
　事務局から、母子保健事業、健康増進事業、食育推進事業、予防接種事業等について、拡充・新規事業について説明をした。

会長：
　特段今すぐ対応を考えなくてはいけないというよりも、対応していただいていたので、それを進めていただきたいです。

会長：
　健康推進員養成・育成についてのところで、今もその推進委員の方にはもう多大なご協力いただいてますが、担っていただいてる方の年齢上がってきているというところで、より幅広い世代の方にこの担い手になっていただいて、市民の生活をサポートしていただくことが大事と思います。
　今後、例えば退職直後の方とか子育て世代でもちょっと時間がある方が、無理なく健康づくりのボラ

ンティアに参加できる、参加したくなるような、こういう活動は参加できるんじゃないかなとか、こういうアプローチがあったら参加をしたいなっていうようなものがあったら、アイディアをいただきたいと思います

委員：
・難しいと思うんですけど、うちの公民館に 100 歳を超えられる方が毎日こられていて、一昨年、NHK の番組に出たんです。私たちもその方を目標にするようになってきています。単なる高齢者だけが集まるのではなく、次の世代の人達も地域の中で関わりの輪を広げていくということで地域自体も継続されるし、心地よく地域の中で生活できるのかなと思います。
・しっかり食べる力のある人は、年齢に関わらず元気。若い人を集めようとせず、高齢者でも張り切っている人だったらやってくれるのではないでしょうか
・若い世代に向けてもっと情報発信したらどうでしょうか

会長：
ありがとうございます。今の 3 人の委員の意見を伺い、やはり自分が健康であること、そのためには健康診断を受けて自分の健康を自分で見つめるっていうことが大事なのかなと思いました。
またアピールするのに、部活動のようにダンスがあったりとか、ウォーキングがあったりと、色々な活動があると思います。こんな健康に良い事をやっている、食事のことを話し合っている、など活動の中身が分かるとハードルが下がるかと思いました。
委員となると、肩の荷が重くなるので、「趣味は健康です」と言うような方に集まっていただくのもいいんじゃないかなと思いました。

会長：
他に何かご意見ある方いらっしゃいますか。ではこちらの議題はこれで終わりにさせていただきます。

（3）市民健康づくり推進協議会の今後の体制について
会長：
続きまして、「市民健康づくり推進協議会の今後の体制について」事務局から説明お願いいたします。

事務局：
事務局から、市民健康づくり推進協議会、生活習慣病予防対策委員会、食育推進会議の統合を検討している旨を説明した。

会長：
本日の議題については以上になりますが、この場で何か皆様、これは言っておきたい、この場には関係ないことでも構いませんが、何かございますでしょうか。

委員：
3つの協議会が1つになるのは結構責任あることだと思いました。
すべての年齢において食育が大事だと思っているので、やはり色々な所で市民に向けて PR するイベントがあった方がいいです。以前総合公園で行っていた健康イベントを是非また開催して市民に向けた健康づくりの周知の場が欲しいです

事務局：
市民健康づくり推進協議会、こどもの生活習慣病予防対策委員会、食育推進会議の統合の話がありました。計画を見ていただくと食育と健康づくりは一緒に進めています。どうしても切っても切れない部分があるため、審議の場を一緒にした方がより密度が高くなると思っています。
ただ、事業を削減することではありません。
健康イベントについては、常々ご意見をただいているところでございますので、検討させていただきま

す。

会長：
　市民公募の方も、参加いただいてありがとうございました。このような場で意見を言うのは難しかったかと思います。また機会がございましたら、是非参加したり、ここで得たことをお持ち帰りいただいて参考にしていただければと思います。ありがとうございました。
　本日の議題はこれで終了いたしますので、進行を事務局にお返しいたします。

（4）閉会
令和8年度市民健康づくり推進協議会を閉会

以　上